

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	コリツカクイカクジン カガワカク 国立大学法人 香川大学								
フリガナ大学の名称	カガワカクイカク 香川大学大学院 (Graduate School, Kagawa University)								
大学本部の位置	香川県高松市幸町1番1号								
大学の目的	世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する。								
新設学部等の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野での具体的な課題解決方法を綿密にデザインでき、かつ複数の学問分野から得られた多様な知識や技術を協調的に組み合わせることのできる能力を有し、未来における新産業の創造や地域が直面する新課題の解決に貢献できる人材を輩出すること。 ・創発科学の視点に立って、大学を核とした地域において、さまざまな主体（住民、企業、官公庁、NPO/NGO等）との柔軟なネットワークを構築し、地域社会の望ましい産業や新たな地域社会の姿を築くこと。 								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	<p>【基礎となる学部等】</p> <p>創発科学研究科創発科学専攻（修士課程）</p> <p>14条特例の実施</p>
	計	3年	22人	0人	66人	博士（学術） 博士（工学） 博士（危機管理学）	令和6年4月第1年次	香川県高松市幸町1番1号及び1番2号 香川県高松市林町2217番地20 香川県木田郡三木町2393	
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>工学研究科博士課程（廃止）</p> <p style="margin-left: 20px;">安全システム建設工学専攻 (△5)</p> <p style="margin-left: 20px;">信頼性情報システム工学専攻 (△7)</p> <p style="margin-left: 20px;">知能機械システム工学専攻 (△5)</p> <p style="margin-left: 20px;">材料創造工学専攻 (△5)</p> <p>※令和6年4月学生募集停止</p> <p>医学系研究科修士課程</p> <p style="margin-left: 20px;">臨床心理学専攻 [定員増] (3) (令和6年4月)</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	創発科学研究科創発科学専攻（博士後期課程）	講義	演習	実験・実習	計	11 単位			
		1 科目	2 科目	0 科目	3 科目				

教	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
員	新設分	創発科学研究科 創発科学専攻（博士後期課程）	73 (73)	34 (34)	8 (8)	6 (6)	121 (121)	0 (0)	0 (0)
		計	73 (73)	34 (34)	8 (8)	6 (6)	121 (121)	0 (0)	0 (0)
組	既設分	創発科学研究科 創発科学専攻（博士前期課程）	109 (119)	69 (69)	8 (8)	7 (7)	193 (203)	0 (0)	12 (18)
		工学研究科							
の	概	安全システム建設工学専攻（博士課程（後期課程））	9 (9)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	0 (0)
		信頼性情報システム工学専攻（博士課程（後期課程））	10 (12)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	17 (19)	0 (0)	0 (0)
要	の	知能機械システム工学専攻（博士課程（後期課程））	7 (7)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
		材料創造工学専攻（博士課程（後期課程））	8 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (13)	0 (0)	0 (0)
の	概	医学系研究科							
		医学専攻（博士課程）	44 (44)	34 (34)	22 (22)	0 (0)	100 (100)	0 (0)	5 (5)
の	概	看護学専攻（博士前期課程）	11 (11)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	10 (10)
		看護学専攻（博士後期課程）	11 (10)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	17 (16)	0 (0)	33 (33)
の	概	臨床心理学専攻（修士課程）	6 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	14 (14)
		農学研究科							
の	概	応用生物・希少糖科学専攻（修士課程）	26 (30)	16 (16)	0 (0)	8 (8)	50 (54)	0 (0)	0 (0)
		教育学研究科							
の	概	高度教職実践専攻（専門職学位課程）	11 (15)	24 (24)	1 (1)	0 (0)	36 (40)	0 (0)	40 (47)
		地域マネジメント研究科							
の	概	地域マネジメント専攻（専門職学位課程）	5 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (11)	0 (0)	0 (0)
		図書館	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
の	概	四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構	0 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)
		国際希少糖研究教育機構	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)
の	概	大学教育基盤センター	1 (1)	6 (6)	0 (1)	0 (0)	7 (8)	0 (0)	0 (0)
		アドミッションセンター	0 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	0 (0)
の	概	学生支援センター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		キャリア支援センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
の	概	地域人材共創センター	0 (0)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	0 (0)
		大学院教学センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
の	概	研究基盤センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (4)
		微細構造デバイス統合研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
の	概	瀬戸内圏研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
		情報メディアセンター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)
の	概	産学連携・知的財産センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		インターナショナルオフィス	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
の	概	保健管理センター	0 (1)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	1 (3)	0 (0)	0 (0)
		計	259 (286)	195 (195)	38 (41)	16 (16)	508 (538)	0 (0)	128 (142)
の	概	合計	332 (359)	229 (229)	46 (49)	22 (22)	629 (659)	0 (0)	128 (142)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		294 (294)	353 (353)	647 (647)					
	技 術 職 員		917 (917)	328 (328)	1,245 (1,245)					
	図 書 館 専 門 職 員		12 (12)	0 (0)	12 (12)					
	そ の 他 の 職 員		9 (12)	133 (133)	142 (145)					
	計		1,232 (1,235)	814 (814)	2,046 (2,049)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	153,265㎡	0㎡	0㎡	153,265㎡					
	運 動 場 用 地	86,872㎡	0㎡	0㎡	86,872㎡					
	小 計	240,137㎡	0㎡	0㎡	240,137㎡					
	そ の 他	710,888㎡	0㎡	0㎡	710,888㎡					
	合 計	951,025㎡	0㎡	0㎡	951,025㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		171,450㎡ (171,450㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	171,450㎡ (171,450㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	94室	90室	634室	11室 (補助職員 0人)	2室 (補助職員 2人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		創発科学研究科創発科学専攻		120 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	創発科学研究科創発 科学専攻	819,610 [259,411] (819,610 [259,411])	52,300 [32,316] (52,300 [32,316])	26,225 [24,648] (26,225 [24,648])	9,787 (9,787)	0 (0)	1,267 (1,267)			
	計	819,610 [259,411] (819,610 [259,411])	52,300 [32,316] (52,300 [32,316])	26,225 [24,648] (26,225 [24,648])	9,787 (9,787)	0 (0)	1,267 (1,267)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
		11,331㎡	811席		1,103,250冊					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		5,588㎡	運動場 5面		テニスコート 14面					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—	—	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		—								
大 学 の 名 称		香川大学								
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
教育学部		年	人	年次 人	人		倍		香川県高松市幸町1 番1号	
学校教育教員養成課程		4	160	—	640	学士(教育学)	1.06	平成15年度		
人間発達環境課程		4	—	—	—	学士(教養学)	—	平成15年度		
法学部 (昼夜開講制)						学士(法学)	0.98		香川県高松市幸町2 番1号	
法学科(昼)		4	150	3年次10	620		1.01	平成15年度		
法学科(夜)			10	—	40		0.57	平成15年度		
		上段は昼間コース、下段は夜間 主コース								

既設大学等の状況	経済学部 (昼夜開講制)					学士(経済学)	1.04			
	経済学科(昼)	4	240	3年次20	1,000		1.05	平成30年度	香川県高松市幸町2番1号	上段は昼間コース、下段は、夜間主コース
	(夜)		10	—	40		0.85	平成30年度		
	経済学科(昼)	4	—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止
	(夜)		—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止
	経営システム学科(昼)	4	—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止
	(夜)		—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止
	地域社会システム学科(昼)	4	—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止
	(夜)		—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止
	医学部							1.00		
	医学科	6	109	2年次5	679	学士(医学)	0.99	平成15年度	香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1	平成25、30、令和2、4、5年度収容定員増による学年進行
	看護学科	4	60		240	学士(看護学)	1.00	平成15年度		
	臨床心理学科	4	20	—	80	学士(臨床心理学)	1.06	平成30年度		
	創造工学部					学士(工学)	1.01			
	創造工学科	4	330	3年次20	1,360		1.01	平成30年度	香川県高松市林町2217番地20	
	工学部					学士(工学)	—			
	安全システム建設工学科	4	—	—	—		—	平成15年度	香川県高松市林町2217番地20	平成30年より学生募集停止
	電子・情報工学科	4	—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止
	知能機械システム工学科	4	—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止
材料創造工学科	4	—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止	
農学部							1.02			
応用生物科学科	4	150	—	600	学士(農学)	1.02	平成18年度	香川県木田郡三木町大字池戸2393番地		
法学研究科 (修士課程)										
法律学専攻	2	—	—	—	修士(法学)	—	平成15年度	香川県高松市幸町2番1号	令和4年度より学生募集停止	
経済学研究科 (修士課程)										
経済学専攻	2	—	—	—	修士(経済学)	—	平成15年度	香川県高松市幸町2番1号	令和4年度より学生募集停止	
創発科学研究科 (修士課程)							1.04			
創発科学専攻	2	130	—	260	修士 (教育学) (法学) (経済学) (工学) (危機管理学) (学術)	1.04	令和4年度			

附属施設の概要

<p>名称：附属坂出小学校 目的：児童の心身の発達に応じて、初等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。 所在地：香川県坂出市文京町2丁目4番2号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地13,075.09㎡，建物5,482.45㎡</p>
<p>名称：附属高松中学校 目的：生徒の心身の発達に応じて、中等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。 所在地：香川県高松市鹿角町394番地 設置年月：昭和26年6月 規模等：土地23,464.09㎡，建物5,482.22㎡</p>
<p>名称：附属坂出中学校 目的：生徒の心身の発達に応じて、中等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。 所在地：香川県坂出市青葉町1番7号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地11,505.15㎡，建物4,607.61㎡</p>
<p>名称：附属特別支援学校 目的：知的障害者に対して小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を行い、あわせてその能力に応じて社会的自立に必要な知識・技能を授けることを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。 所在地：香川県坂出市府中町綾坂889番地 設置年月：昭和50年4月 規模等：土地10,804.34㎡，建物3,501.46㎡</p>
<p>名称：附属幼稚園 目的：幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、学部・大学院等における研究に協力し、及び学部の計画に従い学生の教育実地研究実施にあたることを目的とする。 所在地：香川県坂出市文京町1丁目9番4号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地1,808.36㎡，建物768.58㎡</p>
<p>名称：附属幼稚園高松園舎 目的：幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、学部・大学院等における研究に協力し、及び学部の計画に従い学生の教育実地研究実施にあたることを目的とする。 所在地：香川県高松市番町5丁目1番55号 設置年月：昭和51年4月 規模等：土地（※附属高松小学校団地内），建物431.80㎡</p>
<p>名称：附属教職支援開発センター 目的：実践的指導力の向上及び教職支援体制の充実のため、学部と附属学校園、香川県教育委員会等地域社会の教育関係諸機関と連携・協働して、実地教育、教職支援及び教育開発の推進的役割を果たすことを目的とする。 所在地：香川県高松市幸町1番1号 設置年月：平成27年4月 規模等：土地（※幸町団地内），建物539.09㎡</p>
<p>名称：特別支援教室「すばる」 目的：①発達障害児（特別な教育的支援を必要とする子ども）の保護者や担任に対する相談と指導助言、②発達障害児への個に応じた指導・支援、③保護者や教員、各学校の特別支援教育コーディネーターへの研修、④地域における特別支援教育の推進方策に関する研究など、これらの事業を通じて地域における特別支援教育の充実に寄与することを目的とする。 所在地：香川県坂出市青葉町2番7号 設置年月：平成15年4月 規模等：土地2,817.00㎡，建物1,103.78㎡</p>
<p>名称：香川大学瀬戸内圏研究センター庵治マリンステーション 目的：瀬戸内圏研究の推進を行うとともに、学生の実験、実習指導を行うことを目的とする。 所在地：香川県高松市庵治町鎌野4511番地15 設置年月：平成21年4月 規模等：土地1,039.19㎡，建物488.60㎡</p>
<p>名称：香川大学研究基盤センター R I 実験施設 目的：放射性同位元素による実験・研究・教育を行うことを目的とする。 所在地：香川県木田郡三木町池戸1750番地1 設置年月：平成6年2月 規模等：土地（※三木町医学部団地内），建物423.90㎡</p>

名称：香川大学研究基盤センター
 動物実験施設
 目的：実験動物の飼育管理、系統維持等動物実験に関する研究支援を行う。
 所在地：香川県木田郡三木町池戸1750番地1
 設置年月：昭和61年3月
 規模等：土地（※三木町医学部団地内），建物2,161.37㎡

名称：香川大学研究基盤センター
 遺伝子実験施設
 目的：ゲノム情報科学、組換えDNA実験、その他の遺伝子実験に関する研究及び教育を行う。
 所在地：香川県木田郡三木町池戸2393番地
 設置年月：平成13年3月
 規模等：土地（※三木町農学部団地内），建物1,513.20㎡

名称：香川大学国際希少糖研究教育機構希少糖生産ステーション
 目的：生産方法、生理機能、用途などの研究がほとんど進んでいない「希少糖」に関する独自の研究を進展させるとともに、外部機関との共同研究を推進することにより、地域の科学技術の発展と産業の振興に寄与し、希少糖に関する情報の収集・発信及び教育研究の充実を目的とする。
 所在地：香川県木田郡三木町池戸2393番地
 設置年月：平成15年10月
 規模等：土地（※三木町農学部団地内），建物300.79㎡

名称：香川大学図書館
 目的：学部・研究科が集めた膨大な量の学術資料や研究成果を地域の生涯学習資料として公開することを目的とする。
 所在地：香川県高松市幸町1番1号
 設置年月：昭和45年3月
 規模等：土地（※幸町団地内），建物7,301.09㎡

名称：香川大学博物館
 目的：香川大学の教育・研究において蓄積された標本、資料、発明品などの知的財産を収集、保管、展示し、地域の自然や文化に関して交流を広げ、香川大学と地域との連携を深めることを目的とする。
 所在地：香川県高松市幸町1番1号
 設置年月：平成20年3月
 規模等：土地（※幸町団地内），建物245.00㎡

名称：香川大学情報メディアセンター
 目的：学内情報基盤担当組織の役割を担うと共に、先進的な教育・研究拠点として大学と地域社会に貢献することを目的とする。
 所在地：香川県高松市幸町2番1号
 設置年月：昭和49年3月
 規模等：土地（※幸町団地内），建物958.46㎡

名称：香川大学保健管理センター
 目的：学生及び教職員の心身の健康増進や健康管理を目的とする。
 所在地：香川県高松市幸町2番1号
 設置年月：昭和43年3月
 規模等：土地（※幸町団地内），建物399.19㎡

名称：香川大学医学部附属病院
 目的：良質な医療の提供、医学教育・研究の推進
 所在地：香川県木田郡三木町池戸1750番地1
 設置年月：昭和58年4月
 規模等：土地（※三木町医学部団地内），建物72,833.48㎡

名称：香川大学農学部附属農場
 目的：学生への農場実習教育と教職員の研究及び栽培された作物の市場での販売等経営を行うことを目的としている。
 所在地：香川県さぬき市昭和字谷乙300番地2
 設置年月：昭和44年3月
 規模等：土地170,643.66㎡，建物6,522.24㎡

名称：イノベーションデザイン研究所
 目的：大型研究プロジェクトを企画・提案し、学内外の研究者からなる分野横断的なプロジェクトチームの編成、研究の進捗管理、研究成果の知財管理等を一体的にマネジメントする。
 所在地：高松市番町4丁目8番27号
 設置年月：令和4年4月
 規模等：土地 616.47㎡，建物 590.71㎡

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(香川大学大学院創発科学研究科創発科学専攻（博士後期課程）)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	ELSI&グローバルマインド	1前	1			○			7	1				オムニバス・共同（一部）
	小計（1科目）	—	1			—			7	1	0	0	0	
専門科目	特別研究Ⅲ	1通	4			○			72	32	6	6		
	特別研究Ⅳ	2～3通	6			○			72	33	6	6		
	小計（1科目）	—	1			—			72	33	6	6	0	
（研究指導）	（研究指導）	—	—	—	—				73	34	8	6		
	小計（一科目）	—	10			—			73	34	8	6	0	
合計（3科目）		—	11			—			73	34	8	6	0	
学位又は称号		博士（学術）、博士（工学）、博士（危機管理学）			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係、法学関係、経済学関係、工学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
<p>【博士（学術）】</p> <p>社会創発プログラムを選択し、人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を主指導教員、研究指導コア（人文・社会科学系、意匠系、工学・自然科学系Ⅱ（応用）及び情報系）の教員を副指導教員とし、共通科目（ELSI&グローバルマインド）1単位、専門科目（特別研究Ⅲ（4単位）、特別研究Ⅳ（6単位））10単位の合計3科目11単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査（最終試験）に合格することを修了要件とする。</p> <p>先端工学デザインプログラムを選択し、工学・自然科学系Ⅰ（基礎）、Ⅱ（応用）（人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く）、情報系（人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く）及び意匠系（人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く）の研究指導コアに所属する教員を主指導教員、研究指導コア（人文・社会科学系、情報系、意匠系及び防災・危機管理系）の教員を副指導教員とし、共通科目（ELSI&グローバルマインド）1単位、専門科目（特別研究Ⅲ（4単位）、特別研究Ⅳ（6単位））10単位の合計3科目11単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査（最終試験）に合格することを修了要件とする。</p> <p>【博士（工学）】</p> <p>先端工学デザインプログラムを選択し、工学・自然科学系Ⅰ（基礎）、Ⅱ（応用）（人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く）及び情報系の研究指導コアに所属する教員を主指導教員、研究指導コア（工学・自然科学系Ⅰ（基礎）、Ⅱ（応用）、防災・危機管理系及び情報系）の教員を副指導教員とし、共通科目（ELSI&グローバルマインド）1単位、専門科目（特別研究Ⅲ（4単位）、特別研究Ⅳ（6単位））10単位の合計3科目11単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査（最終試験）に合格することを修了要件とする。</p> <p>【博士（危機管理学）】</p> <p>レジリエント社会創発プログラムを選択し、防災・危機管理系（人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く）の研究指導コアに所属する教員を主指導教員、研究指導コア（防災・危機管理系、工学・自然科学系Ⅰ（基礎）、Ⅱ（応用）、情報系及び人文・社会科学系）の教員を副指導教員とし、共通科目（ELSI&グローバルマインド）1単位、専門科目（特別研究Ⅲ（4単位）、特別研究Ⅳ（6単位））10単位の合計3科目11単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査（最終試験）に合格することを修了要件とする。</p>							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

教 育 課 程 等 の 概 要														
(香川大学大学院創発科学研究科創発科学専攻（博士後期課程）)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	特別研究Ⅲ	1 通	4					○		39	10	1	1	
	特別研究Ⅳ	2～3 通	6					○		39	11	1	1	
	小計（1科目）	—	1					—		39	11	1	1	0
（研究指導）	（研究指導）	—	—	—	—					40	11	2	1	
	小計（一科目）	—	10					—		40	11	2	1	0
合計（3科目）		—	11					—		40	11	2	1	0
学位又は称号		博士（学術）、博士（工学）、博士（危機管理学）			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係、法学関係、経済学関係、工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
<p>【博士（学術）】 社会創発プログラムを選択し、人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を主指導教員、研究指導コア（人文・社会科学系、意匠系、工学・自然科学系Ⅱ（応用）及び情報系）の教員を副指導教員とし、共通科目（ELSI&グローバルマインド）1単位、専門科目（特別研究Ⅲ（4単位）、特別研究Ⅳ（6単位））10単位の合計3科目11単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査（最終試験）に合格することを修了要件とする。 先端工学デザインプログラムを選択し、工学・自然科学系Ⅰ（基礎）、Ⅱ（応用）（人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く）、情報系（人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く）及び意匠系（人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く）の研究指導コアに所属する教員を主指導教員、研究指導コア（人文・社会科学系、情報系、意匠系及び防災・危機管理学）の教員を副指導教員とし、共通科目（ELSI&グローバルマインド）1単位、専門科目（特別研究Ⅲ（4単位）、特別研究Ⅳ（6単位））10単位の合計3科目11単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査（最終試験）に合格することを修了要件とする。</p> <p>【博士（工学）】 先端工学デザインプログラムを選択し、工学・自然科学系Ⅰ（基礎）、Ⅱ（応用）（人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く）及び情報系の研究指導コアに所属する教員を主指導教員、研究指導コア（工学・自然科学系Ⅰ（基礎）、Ⅱ（応用）、防災・危機管理学及び情報系）の教員を副指導教員とし、共通科目（ELSI&グローバルマインド）1単位、専門科目（特別研究Ⅲ（4単位）、特別研究Ⅳ（6単位））10単位の合計3科目11単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査（最終試験）に合格することを修了要件とする。</p> <p>【博士（危機管理学）】 レジリエント社会共創プログラムを選択し、防災・危機管理学系（人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く）の研究指導コアに所属する教員を主指導教員、研究指導コア（防災・危機管理学系、工学・自然科学系Ⅰ（基礎）、Ⅱ（応用）、情報系及び人文・社会科学系）の教員を副指導教員とし、共通科目（ELSI&グローバルマインド）1単位、専門科目（特別研究Ⅲ（4単位）、特別研究Ⅳ（6単位））10単位の合計3科目11単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査（最終試験）に合格することを修了要件とする。</p>								1 学年の学期区分			2期			
								1 学期の授業期間			15週			
								1 時限の授業時間			90分			

教 育 課 程 等 の 概 要														
(香川大学大学院創発科学研究科創発科学専攻（博士後期課程）)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	ELSI&グローバルマインド	1前	1			○			7	1				オムニバス・共同（一部）
	小計（1科目）	—	1			—			7	1	0	0	0	
専門科目	特別研究Ⅲ	1通	4				○		33	20	5	5		
	特別研究Ⅳ	2~3通	6				○		33	20	5	5		
	小計（1科目）	—	1			—			33	20	5	5	0	
（研究指導）	（研究指導）	—	—	—	—				33	21	6	5		
	小計（一科目）	—	10			—			33	21	6	5	0	
合計（3科目）		—	11			—			33	21	6	5	0	
学位又は称号	博士（学術）、博士（工学）、博士（危機管理学）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係、法学関係、経済学関係、工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
<p>【博士（学術）】 社会創発プログラムを選択し、人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を主指導教員、研究指導コア（人文・社会科学系、意匠系、工学・自然科学系Ⅱ（応用）及び情報系）の教員を副指導教員とし、共通科目（ELSI&グローバルマインド）1単位、専門科目（特別研究Ⅲ（4単位）、特別研究Ⅳ（6単位））10単位の合計3科目11単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査（最終試験）に合格することを修了要件とする。</p> <p>先端工学デザインプログラムを選択し、工学・自然科学系Ⅰ（基礎）、Ⅱ（応用）（人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く）、情報系（人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く）及び意匠系（人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く）の研究指導コアに所属する教員を主指導教員、研究指導コア（人文・社会科学系、情報系、意匠系及び防災・危機管理系）の教員を副指導教員とし、共通科目（ELSI&グローバルマインド）1単位、専門科目（特別研究Ⅲ（4単位）、特別研究Ⅳ（6単位））10単位の合計3科目11単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査（最終試験）に合格することを修了要件とする。</p> <p>【博士（工学）】 先端工学デザインプログラムを選択し、工学・自然科学系Ⅰ（基礎）、Ⅱ（応用）（人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く）及び情報系の研究指導コアに所属する教員を主指導教員、研究指導コア（工学・自然科学系Ⅰ（基礎）、Ⅱ（応用）、防災・危機管理系及び情報系）の教員を副指導教員とし、共通科目（ELSI&グローバルマインド）1単位、専門科目（特別研究Ⅲ（4単位）、特別研究Ⅳ（6単位））10単位の合計3科目11単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査（最終試験）に合格することを修了要件とする。</p> <p>【博士（危機管理学）】 レジリエント社会共創プログラムを選択し、防災・危機管理系（人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く）の研究指導コアに所属する教員を主指導教員、研究指導コア（防災・危機管理系、工学・自然科学系Ⅰ（基礎）、Ⅱ（応用）、情報系及び人文・社会科学系）の教員を副指導教員とし、共通科目（ELSI&グローバルマインド）1単位、専門科目（特別研究Ⅲ（4単位）、特別研究Ⅳ（6単位））10単位の合計3科目11単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査（最終試験）に合格することを修了要件とする。</p>							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要																
(香川大学大学院創発科学研究科創発科学専攻(博士後期課程))																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	特別研究Ⅲ	1通	4					○				2				
	特別研究Ⅳ	2~3通	6					○				2				
	小計(1科目)	-	1					-				0	2	0	0	0
(研究指導)	(研究指導)	-	-	-	-							2				
	小計(一科目)	-	10					-				0	2	0	0	0
合計(3科目)		-	11					-				0	2	0	0	0
学位又は称号		博士(学術)、博士(工学)、博士(危機管理学)			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係、法学関係、経済学関係、工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>【博士(学術)】</p> <p>社会創発プログラムを選択し、人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を主指導教員、研究指導コア(人文・社会科学系、意匠系、工学・自然科学系Ⅱ(応用)及び情報系)の教員を副指導教員とし、共通科目(ELSI&グローバルマインド)1単位、専門科目(特別研究Ⅲ(4単位)、特別研究Ⅳ(6単位))10単位の合計3科目11単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査(最終試験)に合格することを修了要件とする。</p> <p>先端工学デザインプログラムを選択し、工学・自然科学系Ⅰ(基礎)、Ⅱ(応用)(人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く)、情報系(人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く)及び意匠系(人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く)の研究指導コアに所属する教員を主指導教員、研究指導コア(人文・社会科学系、情報系、意匠系及び防災・危機管理系)の教員を副指導教員とし、共通科目(ELSI&グローバルマインド)1単位、専門科目(特別研究Ⅲ(4単位)、特別研究Ⅳ(6単位))10単位の合計3科目11単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査(最終試験)に合格することを修了要件とする。</p> <p>【博士(工学)】</p> <p>先端工学デザインプログラムを選択し、工学・自然科学系Ⅰ(基礎)、Ⅱ(応用)(人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く)及び情報系の研究指導コアに所属する教員を主指導教員、研究指導コア(工学・自然科学系Ⅰ(基礎)、Ⅱ(応用)、防災・危機管理系及び情報系)の教員を副指導教員とし、共通科目(ELSI&グローバルマインド)1単位、専門科目(特別研究Ⅲ(4単位)、特別研究Ⅳ(6単位))10単位の合計3科目11単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査(最終試験)に合格することを修了要件とする。</p> <p>【博士(危機管理学)】</p> <p>レジリエント社会共創プログラムを選択し、防災・危機管理系(人文・社会科学系の研究指導コアに所属する教員を除く)の研究指導コアに所属する教員を主指導教員、研究指導コア(防災・危機管理系、工学・自然科学系Ⅰ(基礎)、Ⅱ(応用)、情報系及び人文・社会科学系)の教員を副指導教員とし、共通科目(ELSI&グローバルマインド)1単位、専門科目(特別研究Ⅲ(4単位)、特別研究Ⅳ(6単位))10単位の合計3科目11単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査(最終試験)に合格することを修了要件とする。</p>							1学年の学期区分			2期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(創発科学研究科創発科学専攻(修士課程)) 「※」はユニット間での重複科目を示す

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	研究倫理	1 前	1			○			1						メディア
	創発の基礎 (D)	1 前	1			○			2						メディア
	創発の基礎 (R)	1 前	1			○			1						メディア
	創発の基礎 (I)	1 前	1			○			1						メディア
	創発の方法	1 前	1			○				1					兼1
	創発の発展	1 前	1			○			1						
	創発の視点	1 後		1		○			1						
	創発の思考	1 後		1		○				1					
	創発の実践	1 後		1		○									兼2
	SDGs	1 後		1		○			2						
	ELSI	1 後		1		○			1	1					
	フィールドスタディ	1 後		1				○	3						
小計 (12科目)	—	—	6	6	0	—	—	—	9	1					
法律専門職 ユニット	憲法 I ※	1 前・後		2		○			1						
	憲法 II ※	1 前・後		2		○			1						
	憲法 III ※	1 前・後		2		○				1					
	憲法 IV ※	1 前・後		2		○				1					
	民法 I	1 前・後		2		○				1					
	民法 II	1 前・後		2		○				1					
	民法 III	1 前・後		2		○				1					
	民法 IV	1 前・後		2		○				1					
	民事手続法 I	1 前・後		2		○				1					
	民事手続法 II	1 前・後		2		○				1					
	商法 I	1 前・後		2		○			1						
	商法 II	1 前・後		2		○			1						
	商法 III	1 前・後		2		○			1						
	商法 IV	1 前・後		2		○			1						
	税法 I	1 前・後		2		○			1						
	税法 II	1 前・後		2		○			1						
	労働法 I ※	1 前・後		2		○			1						
	労働法 II ※	1 前・後		2		○			1						
	経済法 I	1 前・後		2		○			1						
	経済法 II	1 前・後		2		○			1						
	新技術と法 I ※	1 前・後		2		○			1						
	新技術と法 II ※	1 前・後		2		○			1						
	隣接法律職講義 I	1 前・後		2		○				1					兼1
隣接法律職講義 II	1 前・後		2		○			1						兼1	
市民生活と法	1 前・後		2		○			1							
法律専門職基礎	1 前・後		2		○				1						

	憲法Ⅰ※	1 前・後	2	○			1					
	憲法Ⅱ※	1 前・後	2	○			1					
	憲法Ⅲ※	1 前・後	2	○				1				
	憲法Ⅳ※	1 前・後	2	○				1				
	刑法Ⅰ	1 前・後	2	○			1					
	刑法Ⅱ	1 前・後	2	○			1					
	刑法Ⅲ	1 前・後	2	○				1				
	刑法Ⅳ	1 前・後	2	○				1				
	刑事訴訟法Ⅰ	1 前・後	2	○				1				
	刑事訴訟法Ⅱ	1 前・後	2	○				1				
	民事法概論	1 前・後	2	○				1				
	行政法Ⅰ	1 前・後	2	○			1					
	行政法Ⅱ	1 前・後	2	○			1					
政策法務	地方自治法Ⅰ	1 前・後	2	○			1					
	地方自治法Ⅱ	1 前・後	2	○			1					
ユニット	労働法Ⅰ※	1 前・後	2	○			1					
	労働法Ⅱ※	1 前・後	2	○			1					
	法思想史Ⅰ	1 前・後	2	○			1					
	法思想史Ⅱ	1 前・後	2	○			1					
	現代社会の課題と国際法Ⅰ	1 前・後	2	○			1					
	現代社会の課題と国際法Ⅱ	1 前・後	2	○			1					
	政治過程論※	1 前・後	2	○			1					
	政治行動論	1 前・後	2	○			1					
	行政学	1 前・後	2	○			1					
	地方自治論※	1 前・後	2	○			1					
	政治史Ⅰ	1 前・後	2	○			1					
	政治史Ⅱ	1 前・後	2	○			1					
	公共選択論Ⅰ	1 前・後	2	○			1					
	公共選択論Ⅱ	1 前・後	2	○			1					
	公共生活と法	1 前・後	2	○			1					
	政策法務基礎	1 前・後	2	○			1					

経済・政策分析 ユニット	アジア経済論	1 前・後	2	○			1						
	経済モデル解析	1 前・後	2	○			1						
	経済政策デザイン	1 前・後	2	○			1						
	計量経済学	1 前・後	2	○			1						
	公共経済学	1 前・後	2	○				1					
	国際経済学	1 前・後	2	○					1				
	財政学	1 前・後	2	○			1						
	ミクロ経済学	1 前・後	2	○				1					
	政治過程論※	1 前・後	2	○			1						
	戦略と情報の経済学	1 前・後	2	○				1					
	地方自治論※	1 前・後	2	○			1						
	統計学	1 前・後	2	○			1						
	福祉経済論	1 前・後	2	○			1						
	ポリティカル・エコノミー	1 前・後	2	○			1						
地方財政論	1 前・後	2	○			2						隔年 共同 兼1	
数理経済学	1 前・後	2	○										
マクロ経済学	1 前・後	2	○			1							
ビジネス ユニット	経営管理論	1 前・後	2	○				1					
	経営戦略論	1 前・後	2	○				1					
	雇用関係論	1 前・後	2	○			1						
	イノベーション論	1 前・後	2	○				1					
	国際経営論	1 前・後	2	○				1					
	経営史	1 前・後	2	○			1						
	経営組織論	1 前・後	2	○				1					
	企業の社会的責任論	1 前・後	2	○				1					
	国際マーケティング論	1 前・後	2	○				1					
	マーケティングサイエンス	1 前・後	2	○					1				
	流通論	1 前・後	2	○				1					
	保険システム論	1 前・後	2	○			1						
	監査論	1 前・後	2	○			1						
	金融会計論	1 前・後	2	○				1					
	管理会計論	1 前・後	2	○			1						
	財務会計論	1 前・後	2	○			1						
	原価計算論	1 前・後	2	○			1						
期待と金融政策	1 前・後	2	○				1						
地域金融論	1 前・後	2	○				1						
会計学原理	1 前・後	2	○			1							
観光・地域戦略 ユニット	サービス・マネジメント論	1 前・後	2	○			1						
	地域活性化とビジネス	1 前・後	2	○			1						
	商品学	1 前・後	2	○			1						
	地域魅力学	1 前・後	2	○			1						
	多文化共生地域論	1 前・後	2	○				1					
	観光デザイン	1 前・後	2	○				1					
	観光人類学	1 前・後	2	○				1					
	都市・交通計画論※	1 前・後	2	○			1						
観光情報学論	1 前・後	2	○			1							

持続共生社会創成 ユニット	持続共生社会創成論	1 前・後	2	○		12	1			オムニバス 共同 (一部)
	人間形成論	1 前・後	2	○		1				
	グローバル共生社会論	1 前・後	2	○		1				
	幸福論	1 前・後	2	○			1			
	UD (ユニバーサルデザイン) 開発論	1 前・後	2	○		1				
	技術支援実装論	1 前・後	2	○		1				
	教育システムデザイン論※	1 前・後	2	○		1				
	言語支援論	1 前・後	2	○		1				
	多文化理解論	1 前・後	2	○		1				
	国際社会とジェンダー論※	1 前・後	2	○		1				
子ども学 ユニット	異文化間コミュニケーション論	1 前・後	2	○		1				
	地域福祉論	1 前・後	2	○		1				
	非営利組織論	1 前・後	2	○		1				
	地域子育て若者支援論	1 前・後	2	○		1				
	チャイルド・サイエンス概論	1 前・後	2	○		5	3			オムニバス 共同 (一部)
	エコロジカル発達科学	1 前・後	2	○		2				共同
	身体運動発達論	1 前・後	2	○		2				共同
	保育・子育て実践政策学	1 前・後	2	○			1			共同 兼1
子ども学 ユニット	子ども環境保健学	1 前・後	2	○			1			
	子ども学実践データ演習	1 前・後	2		○					兼1
	ダイバーシティ&インクルージョン保 育・教育論	1 前・後	2	○			1			
	子ども学フィールド演習	1 前・後	2		○	1				共同 兼1
	人文的実践知	1 前・後	2	○		1	2			共同
人文的実践知 ユニット	現代地域形成論※	1 前・後	2	○		1				
	応用歴史学※	1 前・後	2	○			1			
	実践知の哲学	1 前・後	2	○			1			
	言語生態論	1 前・後	2	○		1				
	近代小説・批評論	1 前・後	2	○			1			
	文字文化論	1 前・後	2	○		1				
	漢文資料研究	1 前・後	2	○			1			
	物語文学解釈論	1 前・後	2	○			1			
	文化人類学	1 前・後	2	○			1			
	アジア社会論	1 前・後	2	○		1				
	台湾論	1 前・後	2	○		1				
	国際社会とジェンダー論※	1 前・後	2	○		1				
	応用倫理学	1 前・後	2	○			1			
高等教育論	1 前・後	2	○			1				
Globalization of higher education sector	1 前・後	2	○		1					
Language and communicative issues in the age of globalization	1 前・後	2	○			3				

専門科目	危機管理学 ユニット	リスクコミュニケーション論	1 前・後	2	○				1					
		危機管理学	1 前・後	2	○			1						
		行政・企業・医療のリスクマネジメント	1 前・後	2	○			1						
		防災・危機管理実習Ⅰ	1 前・後	2			○	1						
		防災・危機管理実習Ⅱ	1 前・後	2			○	1						
		災害と健康管理・メンタルヘルスケア	1 前・後	2	○	○								共同 兼2
		災害心理学	1 前・後	2	○									オムニバス 兼5
		犯罪心理学特論	1 前・後	2	○				1					
		データサイエンスによる危機管理学	1 前・後	2	○				1					
		気候変動論※	1 前・後	2	○			1						
	リスクの科学的予測情報の活用	1 前・後	2	○			1							
	「生活」に関するリスク	1 前・後	2	○			1							
	リスク管理と法	1 前・後	2	○			1							
	情報セキュリティ失敗学※	1 前・後	2	○					1					
	空間情報工学※	1 前・後	2	○			1							
	防災工学※	1 前・後	2	○					1					
	システム信頼性工学※	1 前・後	2	○			1							
	水圏環境学※	1 前・後	2	○			1							
	レジリエントな地域づくりのデザイン	1 前・後	2	○			1							
	循環型環境デザイン ユニット	環境デザイン論	1 前・後	2			○		6	1	1			オムニバス
空間情報工学※		1 前・後	2	○			1							
数値解析論※		1 前・後	2	○			1							
応用歴史学※		1 前・後	2	○					1					
地中海環境史論		1 前・後	2	○					1					
現代地域形成論※		1 前・後	2	○			1							
公共・環境経済学※		1 前・後	2	○						1				
気候変動論※		1 前・後	2	○			1							
流域管理学		1 前・後	2	○			1							
河川・水循環論		1 前・後	2	○			1							
環境基盤科学	1 前・後	2	○			1				1				
水圏環境学※	1 前・後	2	○			1								

エクスペリエンスデザイン&アート ユニット	エクスペリエンスデザイン&アート論	1前・後	2	○			9	5	3	1		オムニバス 共同(一部) 兼1
	デザイン思考論	1前・後	1	○			5	2	2	1		共同
	プロジェクトベーストラーニング	1前・後	2	○			2	4	2	1		共同
	対話デザイン論	1前・後	2	○			1					
	システム工学論	1前・後	2	○				1				
	シミュレーションデザイン論	1前・後	2	○						1		
	コンピューショナルデザイン特論	1前・後	2	○			1	1				
	教育システムデザイン論※	1前・後	2	○			1					
	応用最適化デザイン論	1前・後	2	○			1					
	商品企画とビジネス展開論	1前・後	2	○			1	1	1			共同
	コミュニティコンピューティング	1前・後	2	○				1	1			共同
	サービスデザイン特論	1前・後	2	○			1					
	DX時代のLeanStartup特論	1前・後	2	○				1				
	メディア文化論	1前・後	2	○						1		
	地域芸術論	1前・後	2	○			4	1	1			オムニバス 兼2
	アート表現 (Vocal)	1前・後	2		○		1					
	社会構造リスクからの事業デザイン論	1前・後	2		○		1		1			
	アート表現 (ペインティング)	1前・後	2		○		1					
	アート表現 (クラフト)	1前・後	2		○		1					
	音楽アナリーゼ論	1前・後	2		○							兼1
器楽 (ピアノ演習)	1前・後	2		○				1				
アート表現 (器楽)	1前・後	2		○		1						
アート表現 (ビジュアルデザイン)	1前・後	2		○		1						
ポジティブコンピューティング	1前・後	2		○				1		1		オムニバス
インフラ・アセットマネジメント ユニット	インフラ・アセットマネジメント特論 I -理論-	1前・後	2		○		3	2	2			オムニバス
	インフラ・アセットマネジメント特論 II -実践-	1前・後	2		○		3	2	2			共同
	機械学習の理論と実践※	1前・後	2		○			1				
	数値解析論※	1前・後	2		○		1					
	i-Constructionシステム学 -新技術・新工法・新材料-※	1前・後	2		○		1	2	1			
	リスクベース・アプローチ論	1前・後	2		○			1	1	1		共同
	気候変動論※	1前・後	2		○		1					共同
	構造信頼性工学※	1前・後	2		○				2			
	地盤リスクマネジメント論	1前・後	2		○		1					
	公共・環境経済学※	1前・後	2		○					1		
光・量子材料科学 ユニット	電子機能材料物性※	1前・後	2		○		1					
	光機能材料物性	1前・後	2		○		1					
	光・電子材料プロセス工学	1前・後	2		○		1					
	光・量子材料評価学※	1前・後	2		○			1				
	応用量子力学※	1前・後	2		○		1			1		共同
	表面電子構造論	1前・後	2		○		1					
	持続可能無機材料※	1前・後	2		○		1					
	材料合成学※	1前・後	2		○		1					
光波応用工学※	1前・後	2		○		1						
機能性材料化学 ユニット	生命材料科学	1前・後	2		○		1					
	持続可能無機材料※	1前・後	2		○		1					
	計算機材料デザイン	1前・後	2		○		1					
	分子機能工学特論	1前・後	2		○		1					
	機能性ナノ材料	1前・後	2		○		1					
	分子デザイン戦略	1前・後	2		○			1				
	応用量子力学※	1前・後	2		○		1			1		共同
材料合成学※	1前・後	2		○		1						

構造材料科学 ユニット	構造機能制御※	1前・後		2		○			1		1			
	微細構造解析	1前・後		2		○			1					
	材料合成学※	1前・後		2		○			1					
	金属強度・転位論※	1前・後		2		○			1					
	新世代構造材料※	1前・後		2		○					1			
	持続可能無機材料※	1前・後		2		○			1					
	電子機能材料物性※	1前・後		2		○			1					
	機械信頼性	1前・後		2		○			1					
マイクロセンシングデバイス工学※	マイクロセンシングデバイス工学※	1前・後		2		○			1					
	連続体力学※	1前・後		2		○				1				
計測機械システム工学 ユニット	センサノベーション工学	1前・後		2		○			1			1		共同
	応用光学論	1前・後		2		○			1					
	マイクロセンシングデバイス工学※	1前・後		2		○			1					
	マイクロ流体工学※	1前・後		2		○				1				
	環境エネルギー変換工学※	1前・後		2		○			1					
	認知情報学※	1前・後		2		○				1				
	バイオメカニクス※	1前・後		2		○					1			
	回路デザイン演習※	1前・後		2			○		1					
光・量子材料評価学※	1前・後		2		○				1					
知能ロボティクス ユニット	医用応用工学	1前・後		2		○			1					
	マシンビジョン	1前・後		2		○			1					
	知能移動ロボット学※	1前・後		2		○			1					
	生体応用メカトロニクス	1前・後		2		○				1				
	アドバンスドアクチュエータ※	1前・後		2		○			1					
	認知情報学※	1前・後		2		○				1				
	バイオメカニクス※	1前・後		2		○					1			
	サイバー・フィジカル・メディア	1前・後		2		○				1				
機械工学基盤 ユニット	環境エネルギー変換工学※	1前・後		2		○			1					
	機械信頼性	1前・後		2		○				1				
	自動車運動制御論	1前・後		2		○			1					
	感性情報処理	1前・後		2		○					1			
	連続体力学※	1前・後		2		○				1				
	金属強度・転位論※	1前・後		2		○			1					
	知能移動ロボット学※	1前・後		2		○			1					
	アドバンスドアクチュエータ※	1前・後		2		○			1					
	マイクロ流体工学※	1前・後		2		○				1				
	構造機能制御※	1前・後		2		○			1		1			
	新世代構造材料※	1前・後		2		○				1				
	気候変動論※	1前・後		2		○			1					
新技術と法Ⅰ※	1前・後		2		○			1						
新技術と法Ⅱ※	1前・後		2		○			1						
情報システム・セキュリティ ユニット	分散並列処理論	1前・後		2		○			1					
	プログラミング・パラダイム	1前・後		2		○				1				
	プログラミング言語意味論	1前・後		2		○				1				
	ソフトウェア開発実践論	1前・後		2		○				1				
	ソフトウェアプロジェクトマネジメント論	1前・後		2		○			1					
	ソフトウェアデザイン論※	1前・後		2		○			1					
	セキュリティ・インタフェース設計学	1前・後		2		○					1			
	データ活用プラットフォーム演習	1前・後		2			○				1			
	言語メディア処理論	1前・後		2		○			1					
	情報セキュリティ失敗学※	1前・後		2		○				1				
	情報基盤システム設計論	1前・後		2		○					1			
情報システム・セキュリティ・セミナー	1前・後		2		○			1						

人工知能・通信ネットワークユニット	人工知能・情報通信ネットワークゼミナール	1 前・後		2			○		1			1		共同
	光波応用工学※	1 前・後		2			○		1					
	回路デザイン演習※	1 前・後		2			○		1					
	非線形システム工学※	1 前・後		2			○		2					オムニバス
	医用情報科学	1 前・後		2			○			1				
	計算知能	1 前・後		2			○			1				
	光電子工学・光ネットワーク工学	1 前・後		2			○		1					
	無線通信ネットワーク信号処理	1 前・後		2			○		1	1				
	コヒーレント光通信工学	1 前・後		2			○				1			
建築学ユニット	建築計画論	1 前・後		2			○			1			1	
	建築構法論	1 前・後		2			○				1		1	
	建築構造解析論	1 前・後		2			○			1				
	建築材料科学特論※	1 前・後		2			○		1	2	1			
	都市・交通計画論※	1 前・後		2			○		1					
	防災工学※	1 前・後		2			○		1					
	公共・環境経済学※	1 前・後		2			○				1			
構造信頼性工学※	1 前・後		2			○			2					
数理・データサイエンスユニット	数理・データサイエンス論	1 前・後		2			○		16	5				オムニバス・共同兼5
	ソフトウェアデザイン論※	1 前・後		2			○		1					
	非線形システム工学※	1 前・後		2			○		2					オムニバス
	ヒューマンインタフェース論	1 前・後		2			○		1					
	機械学習の理論と実践※	1 前・後		2			○			1				
	プログラミング実装論	1 前・後		2			○		1					
	データ解析基礎数学	1 前・後		2			○		1					
	応用統計学論	1 前・後		2			○		1					
	データ解析論	1 前・後		2			○		1					
	整数論と現代の暗号理論	1 前・後		2			○		1					
	複素幾何学	1 前・後		2			○			1				
	ネットワークデータ解析	1 前・後		2			○			1				
	電子物性論	1 前・後		2			○		1					
	物理・科学教育研究論	1 前・後		2			○							兼1
	有機化学論	1 前・後		2			○		1					
	生物化学論	1 前・後		2			○		1					
	動物社会学論	1 前・後		2			○		1					
	植物多様性解析論	1 前・後		2			○			1				
	気候変動論※	1 前・後		2			○		1					
	天体データ論	1 前・後		2			○							兼1
データ・メディア認知論	1 前・後		2			○		1						
科学と人間・社会	1 前・後		2			○		2	1				共同	
システム信頼性工学※	1 前・後		2			○		1						
ヒューマンケアシステム論	1 前・後		2			○							オムニバス兼3	
	小計 (267科目)		0	633	0		—		115	66	14	7		
海外特別研修	海外特別研修Ⅰ	1・2 前・後			4			○	1	1				
	海外特別研修Ⅱ	1・2 前・後			2			○	1	1				
	小計 (2科目)	—	0	0	6		—		1	1				
特別研究	特別研究Ⅰ	1	4					○	115	53	12			
	特別研究Ⅱ	2	4					○	115	53	12			
	小計 (2科目)	—	8	0	0		—		115	53	12			

(研究指導)		-	-	-	-		115	53	12				
合計 (283科目)		-	14	639	6	-	115	66	14	7			
学位又は称号	修士 (教育学) 修士 (法学) 修士 (経済学) 修士 (工学) 修士 (危機管理学) 修士 (学術)	学位又は学科の分野				教育学・保育学関係、法学関係、経済学関係、工学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
共通科目から8単位 (必修6単位、選択2単位)、専門科目から16単位 (所属するユニットから12単位、その他のユニットから4単位)、特別研究Ⅰ・Ⅱから各4単位 (計8単位) の合計32単位以上を修得すること。 さらに、修士論文もしくは特定課題についての研究の成果 (☆) を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。 ☆歌唱や器楽曲などの実技や下記に示す作品 <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築作品 ・ 知的財産として登録済みの意匠 ・ 特許 (公開特許を含む) が採用された商品 ・ テレビ・ラジオなどにより放送された作品 ・ 劇場などで一般公開された作品 (音楽作品や映像作品等) ・ 公募展の入選作品 ・ 企画展の招へい作品 ・ 展覧会の企画・キュレーション ・ 企画執行にかかわった商品 						1学年の学期区分		2期					
						1学期の授業期間		15週					
						1時限の授業時間		90分					

授 業 科 目 の 概 要			
（創発科学研究科創発科学専攻（博士後期課程））			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	ELSI&グローバルマインド	<p>（概要） 人文・社会科学から自然科学までの多様な分野の国内外で活躍している研究者との対話を通して、ELSIを含め研究活動を行う上で必要となる責任感と研究倫理意識を高める。具体的には、今日、世界中かつ各研究分野で共通の課題となっている、①社会の多様性の尊重と持続可能な社会の構築、②デジタルトランスフォーメーション、③グリーントランスフォーメーション、④レジリエントな社会のデザインをテーマとして取り上げる。また、自らの研究テーマのオリジナリティをグローバルなスケールで位置づけ直し、自身の研究におけるELSI課題の検討を行う。</p> <p>なお、取り上げるテーマのうち、①社会の多様性の尊重と持続可能な社会の構築と②デジタルトランスフォーメーションは「社会創発プログラム」、②デジタルトランスフォーメーションと③グリーントランスフォーメーションは「先端デザイン工学プログラム」、④レジリエントな社会のデザインは「レジリエント社会創発プログラム」と関連性が深い。</p> <p>最終回（第8回）では、担当教員全員、参加学生全体による討議を行う。 （オムニバス方式/全8回）</p> <p>（1 末永 慶寛/2回） 本博士課程で求められる総合知の考え方に基づく研究の進め方と研究者としての心構えを「総合知で挑む災害への備え」と題して具体的な研究成果と実装の事例を示しながら学生と対話することで学習させる。最終回では、担当教員全員、参加学生全体による討議を行う。</p> <p>（3 平 篤志・79 松岡 久美/2回） 社会の多様性の尊重と持続可能な社会の構築におけるELSIを地方企業のグローバルな展開におけるダイバーシティ&インクルージョンの取り組みを事例として学生と対話することで学習させる。（平担当分）</p> <p>社会の多様性の尊重と持続可能な社会の構築におけるELSIを職場におけるダイバーシティ&インクルージョンの取り組みを事例として学生と対話することで学習させる。（松岡担当分）</p> <p>最終回では、担当教員全員、参加学生全体による討議を行う。</p> <p>（11 寺尾 徹/2回） グリーントランスフォーメーションにおけるELSIを気候変動とカーボンニュートラルを事例として学生と対話することで学習させる。最終回では、担当教員全員、参加学生全体による討議を行う。</p> <p>（20 堤 英敬/2回） デジタルトランスフォーメーションにおけるELSIをデジタル技術と選挙・民主主義を事例として学生と対話することで学習させる。最終回では、担当教員全員、参加学生全体による討議を行う。</p> <p>（45 林 敏浩/2回） 研究を取り巻く様々な倫理（研究倫理、情報倫理、データ倫理、AI倫理、生命倫理など）を具体的な事例を示しながら学生と対話することで学習させる。最終回では、担当教員全員、参加学生全体による討議を行う。</p> <p>（53 鈴木 桂輔/2回） デジタルトランスフォーメーションにおけるELSIをメタバース技術を活用したモビリティ分野の研究開発を事例として学生と対話することで学習させる。最終回では、担当教員全員、参加学生全体による討議を行う。</p>	オムニバス・共同（一部）

		<p>(63 梶谷 義雄/2回) レジリエントな社会のデザインにおけるELSIを感染症や自然災害などの複合危機とレジリエンス・デザインを事例として学生と対話することで学習させる。最終回では、担当教員全員、参加学生全体による討議を行う。</p>	
	<p>特別研究Ⅲ</p>	<p>(概要) 専門分野の知識・能力、技術を修得し、論文作成に必要なスキルを身に付けさせるために指導教員によって1年次に通年で開講される4単位の演習タイプの授業科目とする。本科目を通じて、学生は、専門分野についての知識や能力、技術を修得し、論文作成に必要なスキルを身に付ける。</p> <p>授業内容は、研究倫理、アカデミック・ライティング、研究計画の作成、国内外の文献（先行研究）の収集・整理分析、データの収集・分析、分析結果の整理と考察、研究成果の取りまとめ方、国内外の学会での報告・学会誌等への投稿等の方法についての授業を行う。専門分野によっては、これらに加えて、フィールドワークや各種調査、モデルの構築、プロトタイプ作成、実験、実習、作品の制作・発表の方法などを指導する。担当教員は、研究方法あるいは研究内容において、本研究科の掲げる理念を体現するような活動となるよう、学生に意識づけを行う。これらの活動を通して、ピア・レビューにも耐えうる研究を遂行する上で必要となる高度な専門能力とその応用力、研究倫理、コミュニケーション能力等を身に付ける。</p> <p>知の深化の軸とする専門分野を中心に複数分野の知見を活用した知識・専門的技術を応用して研究を計画・実施できる能力の総合評価により、厳格な成績評価（5段階評価、SABCX）を行う。</p> <p>一連の授業は【研究者マインド育成モジュール】と【専門性の深化・高度な研究遂行能力育成モジュール】に区分し、テーマ等を明確にした。</p> <p>専門性の深化・高度な研究遂行育成モジュールで取り上げる専門分野及び担当教員は、下記のとおりである。下記の専門分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得する。</p> <p>(1 末永 慶寛) 土木工学、環境保全学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。</p> <p>(2 小方 直幸) 教育学（高等教育・教育社会学）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。</p> <p>(3 平 篤志) 地理学（人文地理学）、地域研究の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。</p> <p>(4 三宅 岳史) 哲学（西洋哲学）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。</p> <p>(5 守田 逸人) 日本中世史の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。</p>	

(6 渡邊 史郎)

日本近代文学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(7 小森 博文)

構造生物化学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(8 高木 由美子)

有機化学 化学教育の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(9 高野 啓児)

表現論と保型形式論の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(10 高橋 尚志)

物理学、材料工学、科学教育・教育工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(11 寺尾 徹)

地球惑星科学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(12 松本 一範)

基礎生物学、個体レベルから集団レベルの生物学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(14 山田 貴志)

ロボテックス・知能機械システム(ヒューマンインタフェース、工業科教員養成、職業指導、情動)の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(15 上野 耕平)

体育学(身体教育、発育発達、学校教育、スポーツ心理学)の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(16 宮本 賢作)

健康・スポーツ科学、基礎医学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(17 青木 丈)

租税法の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(18 石井 一也)

経済学、思想史、地域研究の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(19 金 宗郁)

行政学、地方自治、公共政策の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(20 堤 英敬)

政治学（政治過程論、政治参加）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(21 平野 美紀)

刑事法、医事法の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(22 細谷 越史)

民法法学、社会法学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(23 前原 信夫)

民法法学、金融法の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(24 山本 慎一)

国際法の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(25 原 直行)

観光学、社会経済農学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(26 岡田 徹太郎)

財政学、経済政策の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(27 沖 公祐)

経済学（理論経済学、経済学説、経済思想）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(28 加藤 美穂子)

経済学、地域研究の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(29 園部 裕子)

社会学（地域研究、ジェンダー）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(30 張 暁紅)

経営学、経済学（経営史、経済史、産業史）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(31 趙 命来)

商学（国際マーケティング論、流通論）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(32 朴 恩芝)

財務会計（環境・CSR/ESG会計）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(33 長山 貴之)

経済学（公共経済および労働経済）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(34 西成 典久)

建築学、デザイン学（都市工学、都市計画関連、都市形成史、景観デザイン、コミュニティデザイン、観光まちづくり）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(35 宮島 美花)

地域研究、政治学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(36 角道 弘文)

土木工学、農業工学、境界農学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(37 石丸 伊知郎)

光による医用計測・環境計測の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(38 須崎 嘉文)

薄膜表面工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(39 大場 晴夫)

デザイン学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(40 寺林 優)

地球惑星科学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(41 井面 仁志)

社会安全システム科学、危機管理学、人間情報学、科学教育・教育工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(42 田中 康弘)

材料工学、ナノ・マイクロ科学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(43 吉田 秀典)

数理工学、廃棄物工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(44 高橋 悟)

機械工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(45 林 敏浩)

教育工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(46 奥村 幸彦)

機械工学、熱工学、エネルギー工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(47 山中 稔)

土木工学（地盤工学、防災工学）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(48 丹治 裕一)

電子情報工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(49 山中 隆史)

経営学、心理学、科学教育・教育工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(50 石井 知彦)

基礎化学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(51 鶴町 徳昭)

応用物理学・物性物理学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(52 舟橋 正浩)

有機機能化学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(53 鈴木 桂輔)

人間工学、自動車工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(54 高尾 英邦)

センサ工学、半導体工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(55 北島 博之)

ソフトコンピューティング、生命・健康・医療情報学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(56 前山 祥一)

ロボット工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(57 楠瀬 尚史)

材料化学、材料工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(58 安藤 一秋)

人間情報学、情報学フロンティアの分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(59 丸 浩一)

応用物理学、電気電子工学、ナノ・マイクロ科学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(60 三木 信彦)

通信・ネットワーク工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(61 石塚 正秀)

土木工学、地球惑星科学、環境解析評価の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(62 上村 忍)

高分子、有機材料科学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(63 梶谷 義雄)

社会・安全システム科学、土木工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(64 八重樫 理人)

情報科学、情報工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(65 野々村(池田) 敦子)

防災工学(空間情報解析学、地理情報)の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(66 松本 洋明)

金属冶金学、金属加工プロセス工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(67 佐々木 大輔)

機械力学、ロボティクスの分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(68 宮川 勇人)

物性物理学、電気電子工学、応用物理の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(69 藤本 憲市)

人間情報学、人間医工学、電気電子工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(70 石井 光治)

通信工学、制御およびシステム工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(71 板谷 和彦)

経営学（技術経営 イノベーション 創造性の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。）

(72 中村 正伸)

経営学（会計学、プロジェクトマネジメント、製品開発、予算管理）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。）

(73 西中 美和)

経営学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(74 大久保 智生)

教育心理学・犯罪心理学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(75 松井 剛太)

幼児教育の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(76 篠原 渉)

植物分類学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(77 天田 悠)

刑事法学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(78 林田 光弘)

民事法学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(79 松岡 久美)

経営学（経営組織論、組織行動論）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(80 喜田 弘司)

情報工学、人間情報学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(81 石原 秀則)

知覚情報処理・知能ロボティクス、科学教育の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(82 香川 考司)

計算基盤（ソフトウェア、プログラミング言語）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(83 吉村 英徳)

機械工学、加工学、材料力学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(84 中島 美登子)

建築計画学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(85 高木 智彦)

計算基盤（ソフトウェア）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(86 岡崎 慎一郎)

土木工学（コンクリート工学、維持管理工学）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(87 北村 尊義)

人間情報学、社会システム工学、安全工学、防災工学、心理学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(88 後藤田 中)

科学教育・教育学、人間情報学、健康・スポーツ科学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(89 寺尾 京平)

ナノ・マイクロ科学、機械工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(90 宮本 慎宏)

木質構造、耐震工学、文化財保存の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(91 勝又 暢久)

航空宇宙工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(92 高橋 亨輔)

情報学フロンティア、社会・安全システム科学、人間情報学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(93 松下 (荒井) 春奈)

ソフトコンピューティング、知能情報学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(94 松田 伸也)

機械工学 機械材料・材料力学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(95 佐藤 (鈴木) 敬子)

工学・情報学・心理学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(96 地元 孝輔)

社会・安全システム科学、建築学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(97 竹之内 健介)

社会・安全システム科学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(99 米谷 雄介)

情報科学、情報工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(100 荒木 裕行)

地盤工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(101 小玉 崇宏)

電気電子工学、総合工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(102 玉置 哲也)

土木工学、社会・安全システム科学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(104 田原 圭志朗)

ナノ・マイクロ科学、複合化学、材料化学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(105 武藤 幸雄)

食料農業経済関連、農業社会構造関連の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(106 諸隈 正裕)

生産環境農学、農業工学、社会経済農学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(107 吉澤 康代)

経営学（組織行動論、人的資源管理論）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(108 林 純一郎)

人間情報学、電気電子工学、機械工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(109 竹内 謙善)

応用数学、設計工学、機械力学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(110 亀井 仁志)

計算基盤（ソフトウェア、情報ネットワーク、情報ストレージシステム）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(112 釜床（山下）美也子)

建築学（建築工法、建築史、景観）の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(113 福森 聡)

ヒューマンインタフェース、バーチャルリアリティ、認知科学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(114 鈴木 達也)

建築学、土木工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(116 小野 貴史)

物性物理学、応用物理物性、応用物理工学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(117 李 セロン)

情報通信、感性情報学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(118 山本 高広)

建築学、建築環境・設備の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(119 小宅 由似)

境界農学、森林園科学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(120 武田 健太郎)

人間情報学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

(121 平野 満大)

材料工学、ナノマイクロ科学の分野を題材にした授業により研究計画の作成方法、先端研究のレビュー、データ収集の方法、分析方法、アカデミックライティング、ピア・レビューの方法、学会プレゼンの方法を修得させる。

<p>専門科目</p>	<p>特別研究Ⅳ</p>	<p>(概要) 産業界或いは自治体等の公的機関、地域の各種団体と連携した教育体制により、特別研究Ⅲで学習した内容の総合知への発展及び社会実装を試行を視野に入れ、指導教員により2年次から3年次にかけて開講する。 分野を跨ぎながら見いだした総合知を実装に向けて試行するために産業界或いは自治体等の公的機関、地域の各種団体等と連携した教育体制による社会実装の場を含めた演習タイプの授業科目とする。 本授業は、学外の関係者を交えた試行とフィードバックの場とし、学生の属性や研究内容により、ジョブ型インターンシップや、リサーチ・ファームを介した産学連携プロジェクトへの参画、サービスマーケティング、フィールドワーク、アクションリサーチ等の多様な形態をとる。フィールドへの近接性を活かし、授業を通じて企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかるとともに、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となることを理解し、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。多様な関係者との協働の経験やそこで得られるフィードバックとそれらへの対応は、従来の博士人材に不足しがちであった実務の現場で必要とされる柔軟な思考力やコミュニケーション能力の育成を図ることになる。 知の深化の軸とする専門分野を中心に複数分野の知見を活用した知識・専門的技術を応用して研究を計画・実施できる能力の総合評価により、厳格な成績評価（5段階評価、SABCX）を行う。 一連の授業は、【総合知への発展モジュール】、【研究成果の実装モジュール】、【課題の把握と実装モジュール】の3つに区分しテーマ等を明確にする。 担当する指導教員及びその専門分野は下記のとおりである。</p> <p>(1 末永 慶寛) 土木工学、環境保全学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。</p> <p>(2 小方 直幸) 教育学（高等教育・教育社会学）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。</p> <p>(3 平 篤志) 地理学（人文地理学）、地域研究の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。</p> <p>(4 三宅 岳史) 哲学（西洋哲学）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。</p>
-------------	--------------	---

(5 守田 逸人)

日本中世史の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(6 渡邊 史郎)

日本近代文学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(7 小森 博文)

構造生物化学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(8 高木 由美子)

有機化学、化学教育の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(9 高野 啓児)

表現論と保型形式論の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(10 高橋 尚志)

物理学、材料工学、科学教育・教育工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(11 寺尾 徹)

地球惑星科学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(12 松本 一範)

基礎生物学、個体レベルから集団レベルの生物学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(14 山田 貴志)

ロボテックス・知能機械システム(ヒューマンインタフェース、工業科教員養成、職業指導、情動)の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(15 上野 耕平)

体育学(身体教育、発育発達、学校教育、スポーツ心理学)の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(16 宮本 賢作)

健康・スポーツ科学、基礎医学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(17 青木 丈)

租税法の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(18 石井 一也)

経済学、思想史、地域研究の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(19 金 宗郁)

行政学、地方自治、公共政策の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(20 堤 英敬)

政治学（政治過程論、政治参加）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(21 平野 美紀)

刑事法、医事法の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(22 細谷 越史)

民法学、社会学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(23 前原 信夫)

民法学、金融法の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(24 山本 慎一)

国際法の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(25 原 直行)

観光学、社会経済農学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(26 岡田 徹太郎)

財政学、経済政策の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(27 沖 公祐)

経済学（理論経済学、経済学説、経済思想）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(28 加藤 美穂子)

経済学、地域研究の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(29 園部 裕子)

社会学（地域研究、ジェンダー）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(30 張 暁紅)

経営学、経済学（経営史、経済史、産業史）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(31 趙 命来)

商学（国際マーケティング論、流通論）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(32 朴 恩芝)

財務会計（環境・CSR/ESG会計）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(33 長山 貴之)

経済学（公共経済および労働経済）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(34 西成 典久)

建築学、デザイン学（都市工学、都市計画関連、都市形成史、景観デザイン、コミュニティデザイン、観光まちづくり）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(35 宮島 美花)

地域研究、政治学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(36 角道 弘文)

土木工学、農業工学、境界農学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(37 石丸 伊知郎)

光による医用計測・環境計測を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(38 須崎 嘉文)

薄膜表面工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(39 大場 晴夫)

デザイン学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(40 寺林 優)

地球惑星科学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(41 井面 仁志)

社会安全システム科学、危機管理学、人間情報学、科学教育・教育工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(42 田中 康弘)

材料工学、ナノ・マイクロ科学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(43 吉田 秀典)

教理工学、廃棄物工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(44 高橋 悟)

機械工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(45 林 敏浩)

教育工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(46 奥村 幸彦)

機械工学、熱工学、エネルギー工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(47 山中 稔)

土木工学（地盤工学、防災工学）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(48 丹治 裕一)

電子情報工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(49 山中 隆史)

経営学、心理学、科学教育・教育工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(50 石井 知彦)

基礎化学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(51 鶴町 徳昭)

応用物理学・物性物理学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(52 舟橋 正浩)

有機機能化学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(53 鈴木 桂輔)

人間工学、自動車工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(54 高尾 英邦)

センサ工学、半導体工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(55 北島 博之)

ソフトコンピューティング、生命・健康・医療情報学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(56 前山 祥一)

ロボット工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(57 楠瀬 尚史)

材料化学、材料工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(58 安藤 一秋)

人間情報学、情報学フロンティアの分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(59 丸 浩一)

応用物理学、電気電子工学、ナノ・マイクロ科学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(60 三木 信彦)

通信・ネットワーク工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(61 石塚 正秀)

土木工学、地球惑星科学、環境解析評価の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(62 上村 忍)

高分子、有機材料科学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(63 梶谷 義雄)

社会・安全システム科学、土木工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(64 八重樫 理人)

情報科学、情報工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(65 野々村(池田) 敦子)

防災工学(空間情報解析学、地理情報)の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(66 松本 洋明)

金属冶金学、金属加工プロセス工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(67 佐々木 大輔)

機械力学、ロボティクスの分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(68 宮川 勇人)

物性物理学、電気電子工学、応用物理の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(69 藤本 憲市)

人間情報学、人間医工学、電気電子工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(70 石井 光治)

通信工学、制御およびシステム工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(71 板谷 和彦)

経営学（技術経営 イノベーション 創造性）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(72 中村 正伸)

経営学（会計学、プロジェクトマネジメント、製品開発、予算管理）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(73 西中 美和)

経営学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(74 大久保 智生)

教育心理学・犯罪心理学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(75 松井 剛太)

幼児教育の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(76 篠原 渉)

植物分類学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(77 天田 悠)

刑事法学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(78 林田 光弘)

民法学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(79 松岡 久美)

経営学（経営組織論、組織行動論）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(80 喜田 弘司)

情報工学、人間情報学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(81 石原 秀則)

知覚情報処理・知能ロボティクス、科学教育の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(82 香川 考司)

計算基盤（ソフトウェア、プログラミング言語）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(83 吉村 英徳)

機械工学、加工学、材料力学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(84 中島 美登子)

建築計画学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(85 高木 智彦)

計算基盤（ソフトウェア）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(86 岡崎 慎一郎)

土木工学（コンクリート工学、維持管理工学）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(87 北村 尊義)

人間情報学、社会システム工学、安全工学、防災工学、心理学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(88 後藤田 中)

科学教育・教育工学、人間情報学、健康・スポーツ科学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(89 寺尾 京平)

ナノ・マイクロ科学、機械工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(90 宮本 慎宏)

木質構造、耐震工学、文化財保存の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(91 勝又 暢久)

航空宇宙工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(92 高橋 亨輔)

情報学フロンティア、社会・安全システム科学、人間情報学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(93 松下 (荒井) 春奈)

ソフトコンピューティング、知能情報学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(94 松田 伸也)

機械工学 機械材料・材料力学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(95 佐藤 (鈴木) 敬子)

工学・情報学・心理学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(96 地元 孝輔)

社会・安全システム科学、建築学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(97 竹之内 健介)

社会・安全システム科学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(99 米谷 雄介)

情報科学、情報工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(100 荒木 裕行)

地盤工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(101 小玉 崇宏)

電気電子工学、総合工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(102 玉置 哲也)

土木工学、社会・安全システム科学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(103 南 政宏)

芸術（情報デザイン、工業デザイン、空間デザイン、デザイン支援）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(104 田原 圭志朗)

ナノ・マイクロ科学、複合化学、材料化学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(105 武藤 幸雄)

食料農業経済関連、農業社会構造関連の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(106 諸隈 正裕)

生産環境農学、農業工学、社会経済農学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(107 吉澤 康代)

経営学（組織行動論、人的資源管理論）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(108 林 純一郎)

人間情報学、電気電子工学、機械工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(109 竹内 謙善)

応用数学、設計工学、機械力学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(110 亀井 仁志)

計算基盤（ソフトウェア、情報ネットワーク、情報ストレージシステム）の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(112 釜床 (山下) 美也子)

建築学(建築工法、建築史、景観)の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(113 福森 聡)

ヒューマンインタフェース、バーチャルリアリティ、認知科学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(114 鈴木 達也)

建築学、土木工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(116 小野 貴史)

物性物理学、応用物性物理学、応用物理工学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(117 李 セロン)

情報通信、感性情報学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(118 山本 高広)

建築学、建築環境・設備の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

(119 小宅 由似)

境界農学、森林園科学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。

		<p>(120 武田 健太郎) 人間情報学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。</p> <p>(121 平野 満大) 材料工学、ナノマイクロ科学の分野を中心に幅広い分野から文献や資料を収集し、それらを素材として、現象を多面的に捉えた議論を行うとともに、企業等との共同研究や地域活動等への学生の参画を促し、実務の現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する深い理解をはかり、課題解決においては分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となること、理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験させる。</p>	
(研究指導)	(研究指導)	<p>(概要) 研究指導は、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえ、指導教員ごとに「研究指導計画書」に基づき実施する。研究指導計画は、各年次ごとに、学位論文の完成を目的として立案する。 学生は、専門分野に関して、指導教員の指導の下、選択した研究テーマについての学位論文の完成を目指す。指導教員は、自らの専門分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。</p> <p>(1 末永 慶寛) 土木工学、環境保全学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。</p> <p>(2 小方 直幸) 教育学(高等教育・教育社会学)の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。</p> <p>(3 平 篤志) 地理学(人文地理学)や地域研究の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。</p> <p>(4 三宅 岳史) 哲学(西洋哲学)の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。</p> <p>(5 守田 逸人) 日本中世史の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。</p> <p>(6 渡邊 史郎) 日本近代文学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。</p> <p>(7 小森 博文) 構造生物化学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。</p>	

(8 高木 由美子)

有機化学や化学教育の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(9 高野 啓児)

表現論と保型形式論の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(10 高橋 尚志)

物理学、材料工学、科学教育・教育工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(11 寺尾 徹)

地球惑星科学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(12 松本 一範)

基礎生物学、個体レベルから集団レベルの生物学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(13 宮崎 英一)

教育工学、リハビリテーション科学、福祉工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(14 山田 貴志)

ロボテックス・知能機械システム(ヒューマンインタフェース、工業科教員養成、職業指導、情動)の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(15 上野 耕平)

体育学(身体教育、発育発達、学校教育、スポーツ心理学)の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(16 宮本 賢作)

健康・スポーツ科学、基礎医学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(17 青木 丈)

租税法の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(18 石井 一也)

経済学、思想史、地域研究の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(19 金 宗郁)

行政学、地方自治、公共政策の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(20 堤 英敬)

政治学(政治過程論、政治参加)の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(21 平野 美紀)

刑事法、医事法の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(22 細谷 越史)

民法学、社会学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(23 前原 信夫)

民法学、金融法の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(24 山本 慎一)

国際法の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(25 原 直行)

観光学、社会経済農学に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(26 岡田 徹太郎)

財政学、経済政策にの分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(27 沖 公祐)

経済学（理論経済学、経済学説、経済思想）にの分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(28 加藤 美穂子)

経済学、地域研究に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(29 園部 裕子)

社会学（地域研究、ジェンダー）に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(30 張 暁紅)

経営学、経済学（経営史、経済史、産業史）の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(31 趙 命来)

商学（国際マーケティング論、流通論）の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(32 朴 恩芝)

財務会計（環境・CSR/ESG会計）の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(33 長山 貴之)

経済学（公共経済および労働経済）の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(34 西成 典久)

建築学、デザイン学（都市工学、都市計画関連、都市形成史、景観デザイン、コミュニティデザイン、観光まちづくり）に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(35 宮島 美花)

地域研究、政治学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(36 角道 弘文)

土木工学、農業工学、境界農学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(37 石丸 伊知郎)

光による医用計測・環境計測に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(38 須崎 嘉文)

薄膜表面工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(39 大場 晴夫)

デザイン学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(40 寺林 優)

地球惑星科学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(41 井面 仁志)

社会安全システム科学、危機管理学、人間情報学、科学教育・教育工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(42 田中 康弘)

材料工学、ナノ・マイクロ科学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(43 吉田 秀典)

数理工学、廃棄物工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(44 高橋 悟)

機械工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(45 林 敏浩)

教育工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(46 奥村 幸彦)

機械工学、熱工学、エネルギー工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(47 山中 稔)

土木工学（地盤工学、防災工学）の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(48 丹治 裕一)

電子情報工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(49 山中 隆史)

経営学、心理学、科学教育・教育工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(50 石井 知彦)

基礎化学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(51 鶴町 徳昭)

応用物理学・物性物理学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(52 舟橋 正浩)

有機機能化学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(53 鈴木 桂輔)

人間工学、自動車工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(54 高尾 英邦)

センサ工学、半導体工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(55 北島 博之)

ソフトコンピューティング、生命・健康・医療情報学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(56 前山 祥一)

ロボット工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(57 楠瀬 尚史)

材料化学、材料工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(58 安藤 一秋)

人間情報学、情報学フロンティアの分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(59 丸 浩一)

応用物理学、電気電子工学、ナノ・マイクロ科学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(60 三木 信彦)

通信・ネットワーク工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(61 石塚 正秀)

土木工学、地球惑星科学、環境解析評価の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(62 上村 忍)

高分子、有機材料科学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(63 梶谷 義雄)

社会・安全システム科学、土木工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(64 八重樫 理人)

情報科学、情報工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(65 野々村(池田) 敦子)

防災工学(空間情報解析学、地理情報)の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(66 松本 洋明)

金属冶金学、金属加工プロセス工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(67 佐々木 大輔)

機械力学、ロボティクスの分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(68 宮川 勇人)

物性物理学、電気電子工学、応用物理の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(69 藤本 憲市)

人間情報学、人間医工学、電気電子工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(70 石井 光治)

通信工学、制御およびシステム工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(71 板谷 和彦)

経営学（技術経営 イノベーション 創造性）の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(72 中村 正伸)

経営学（会計学、プロジェクトマネジメント、製品開発、予算管理）の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(73 西中 美和)

経営学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(74 大久保 智生)

教育心理学・犯罪心理学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(75 松井 剛太)

幼児教育の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(76 篠原 渉)

植物分類学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(77 天田 悠)

刑事法学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(78 林田 光弘)

民事法学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(79 松岡 久美)

経営学（経営組織論、組織行動論）の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(80 喜田 弘司)

情報工学、人間情報学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(81 石原 秀則)

知覚情報処理・知能ロボティクス、科学教育の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(82 香川 考司)

計算基盤（ソフトウェア、プログラミング言語）の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(83 吉村 英徳)

機械工学、加工学、材料力学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(84 中島 美登子)

建築計画学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(85 高木 智彦)

計算基盤（ソフトウェア）の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(86 岡崎 慎一郎)

土木工学（コンクリート工学、維持管理工学）の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(87 北村 尊義)

人間情報学、社会システム工学、安全工学、防災工学、心理学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(88 後藤田 中)

科学教育・教育工学、人間情報学、健康・スポーツ科学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(89 寺尾 京平)

ナノ・マイクロ科学、機械工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(90 宮本 慎宏)

木質構造、耐震工学、文化財保存の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(91 勝又 暢久)

航空宇宙工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(92 高橋 亨輔)

情報学フロンティア、社会・安全システム科学、人間情報学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(93 松下 (荒井) 春奈)
ソフトコンピューティング、知能情報学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(94 松田 伸也)
機械工学 機械材料・材料力学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(95 佐藤 (鈴木) 敬子)
工学・情報学・心理学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(96 地元 孝輔)
社会・安全システム科学、建築学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(97 竹之内 健介)
社会・安全システム科学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(98 井上 恒)
人間医工学、スポーツ科学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(99 米谷 雄介)
情報科学、情報工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(100 荒木 裕行)
地盤工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(101 小玉 崇宏)
電気電子工学、総合工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(102 玉置 哲也)
土木工学、社会・安全システム科学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(103 南 政宏)
芸術 (情報デザイン、工業デザイン、空間デザイン、デザイン支援) の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(104 田原 圭志朗)
ナノ・マイクロ科学、複合化学、材料化学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(105 武藤 幸雄)

食料農業経済関連、農業社会構造関連の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(106 諸隈 正裕)

生産環境農学、農業工学、社会経済農学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(107 吉澤 康代)

経営学（組織行動論、人的資源管理論）の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(108 林 純一郎)

人間情報学、電気電子工学、機械工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(109 竹内 謙善)

応用数学、設計工学、機械力学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(110 亀井 仁志)

計算基盤（ソフトウェア、情報ネットワーク、情報ストレージシステム）の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(111 柴田 悠基)

芸術（芸術実践、地域芸術、アートプロジェクト）の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(112 釜床（山下）美也子)

建築学（建築工法、建築史、景観）の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(113 福森 聡)

ヒューマンインタフェース、バーチャルリアリティ、認知科学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(114 鈴木 達也)

建築学、土木工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(115 堤 成可)

人間情報学、機械力学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

(116 小野 貴史)

物性物理学、応用物性物理学、応用物理工学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。

		<p>(117 李 セロン) 情報通信、感性情報学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。</p> <p>(118 山本 高広) 建築学、建築環境・設備の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。</p> <p>(119 小宅 由似) 境界農学、森林圏科学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。</p> <p>(120 武田 健太郎) 人間情報学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。</p> <p>(121 平野 満大) 材料工学、ナノマイクロ科学の分野に関する研究テーマについて、学生が調査・分析等を展開し、研究内容を系統的にまとめられるよう研究指導を行う。</p>	
--	--	---	--

香川大学 設置申請に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
香川大学				香川大学				
教育学部 学校教育教員養成課程	160	-	640	教育学部 学校教育教員養成課程	160	-	640	
法学部 法学科(昼間コース) (夜間主コース)	150	10	620	法学部 法学科(昼間コース) (夜間主コース)	150	10	620	
経済学部 経済学科(昼間コース) (夜間主コース)	240	20	1,000	経済学部 経済学科(昼間コース) (夜間主コース)	240	20	1,000	
医学部 医学科 看護学科 臨床心理学科	95	5	595	医学部 医学科 看護学科 臨床心理学科	95	5	595	
創造工学部 創造工学科	330	20	1,360	創造工学部 創造工学科	330	20	1,360	
農学部 応用生物科学科	150	-	600	農学部 応用生物科学科	150	-	600	
計	1,225	5 3年次 50	5,215	計	1,225	5 3年次 50	5,215	
香川大学大学院				香川大学大学院				
創発科学研究科 創発科学専攻(M)	130	-	260	創発科学研究科 創発科学専攻 (M) 創発科学	130	-	260	
工学研究科 安全システム建設工学専攻(D) 信頼性情報システム工学専攻(D) 知能機械システム工学専 攻(D) 材料創造工学専攻 (D)	5	-	15	工学研究科 安全システム建設工学専攻(D) 信頼性情報システム工学専攻(D) 知能機械システム工学専 攻(D) 材料創造工学専攻 (D)	0	-	0	課程変更(認可申請) 令和6年4月学生募集停止 令和6年4月学生募集停止 令和6年4月学生募集停止 令和6年4月学生募集停止
医学系研究科 臨床心理学専攻 (M) 看護学専攻 (M) 医学専攻(4年制) D) 看護学専攻	10	-	20	医学系研究科 臨床心理学専攻 (M) 看護学専攻 (M) 医学専攻(4年制) D) 看護学専攻	13	-	26	定員変更(3)
農学研究科 応用生物・希少糖科学専攻(M)	60	-	120	農学研究科 応用生物・希少糖科学専攻(M)	60	-	120	
教育学研究科 高度教職実践専攻(P)	20	-	40	教育学研究科 高度教職実践専攻(P)	20	-	40	
地域マネジメント研究科 地域マネジメント専攻(P)	30	-	60	地域マネジメント研究科 地域マネジメント専攻(P)	30	-	60	
計	320	-	724	計	323	-	730	